



令和4年鬼北町成人式

大人になった自覚と決意新たに



1~3_久しぶりに会った親友と仲良く記念撮影 4_迫力ある演奏で新成人を祝福した「魁」 5_記念品の目録を受け取る櫻田侑生さん 6_艶やかな晴れ着姿の新成人たち 7_謝辞を述べる清水健さん

1月3日、広見体育センターで「令和4年鬼北町成人式」が開催され、対象者120人のうち、72人（男40人、女32人）の新成人が出席しました。

新型コロナウイルスの感染防止のため、新成人はPCR検査で陰性を確認した上で出席したほか、受付前に検温と消毒を行い、会場の席と席の間をこれまでよりも広くとるなどの感染対策がとられました。

開式の前には、太鼓集団「魁」が「躍動」を披露。兵頭町長を含む魁のメンバーの力強い演奏で、新成人の輝かしい門出を祝福しました。

式典では、兵頭町長が「焦ったり、急いだりすることなく、失敗や挫折を乗り越えながら夢と希望と自分の可能性を信じて前向きな人生を歩んでほしい」と、新成人たちを激励。記念品贈呈では、宮城県白石市の白石和紙を使用した名刺入れが贈られ、櫻田侑生さんⅡ奈

良Ⅱが兵頭町長から目録を受け取りました。白石市とは、平成30年3月に白石和紙の原料である「虎斑楮」が鬼北泉貨紙保存会に贈られたことを機に、自治体間で交流が深められています。繊維がしっかりと絡み合うことで、丈夫でしなやかな和紙ができることから、記念品には、和紙のように人と人との繋がりを大切にしたいという願いが込められています。

謝辞では、新成人を代表して清水健さんⅡ大宿Ⅱが「大人としての自覚を持ち、人との繋がりを大切にし、責任ある社会人として歩んでいく。そして、家族や先生方、地域の方々に感謝を伝えたい」と、新成人としての決意を述べていました。また、小学校6年生、中学校3年生のときの担任の先生が登壇する恩師からのビデオレターの上映もあり、会場には、新成人のマスク越しの笑顔が溢れていました。